

注目の新設校インタビュー

東京農業大学第二高等学校中等部(認可申請中)

お話 東京農業大学第二高等学校

校長 加藤 秀隆 先生



編集部 よろしくお願いたします。東京農業大学第二高等学校は1962年に開校し、60年間高校単独校でした。高崎地区では有名な私立高校です。2023年から中等部を開校し、中高一貫教育に乗り出すことになった理由からお話いただけますか。

加藤 二つあって、一つは学園としての方針です。東京農業大学には高校が3校設置されていて、東京都の第一高校、埼玉県の第三高校はすでに中学校を設置しています。2019年にはさらに小学校も開校、小学校から大学院までを擁する総合学園になりました。そこでさらに、教育の理念「実学主義」を広げるべく、本校でも中学校を開校し、中高一貫教育に取り組むことにしました。

編集部 もう一つは何でしょうか。

加藤 地域の選択肢を広げるということです。本校がある高崎市は教育熱心な家庭も多い地域ですが、交通も発達していて、小・中・高校生の別なく、県外の学校を選ぶ家庭も少なくありません。

編集部 そういえば、埼玉県北部の私立中学校で、高崎周辺からの医学部進学希望のお子さんの受験ニーズのお話を聞いたことがあります。

加藤 医学部だけではありません。コロナ禍もあって、「先が読めない」ことに不安感がある家庭が多くなりました。教育内容に対する保護者のニーズが変わってきています。こうした声に応えられるよう学校作りに努めたいと思います。

編集部 どのような規模の中学校になるのでしょうか。

加藤 男女共学で1クラス35名の2クラス、1学年は70名を予定しています。

編集部 中高一貫教育で育てる人材のイメージを

お聞かせください。

加藤 まず、自分で自分の限界を決めずに、積極的に自分の「器」を拡大できること、そして他者と協働して社会や世界に働きかけができる人材を育てたいですね。そのため「『開拓と創造』の精神の育成」を教育目標に掲げます。

編集部 教育の3本柱を決めていらっしゃるそうですね。

加藤 「語学・グローバル教育」、「ICT・プログラミング教育」、「理科教育」です。

編集部 まず「語学・グローバル教育」からお聞かせください。

加藤 現代はグローバル化した社会です。国際人として活躍するためには、まずは実践的な英語を身に付けることです。複数の外国人教員を1つのクラスに配置することで生徒一人ひとりの発話機会を増やそうと思っています。やはり生きた英語が大切です。

編集部 外国人教員は多いのですか。

加藤 本校では、高校入学生を対象とした、1年間の海外留学が組み込まれたグローバルコースを設置していて、外国人教員も6名在職しています。それと多読ですね。現在英語科でかなり多くの英語の本を購入し、授業をきっかけに、授業時間以外でも自由に英語の本を読みたくなるような環境づくりを行っています。

編集部 英語力の目標はありますか。

加藤 英検準2級は高校1年、2級は高校2年までに全員取得をめざします。

編集部 そのような実力があれば、次は海外研修ですね。

加藤 中高一貫コースでは1年間の留学というわけにはいきませんが、高校段階ではセブ島研修やオーストラリアスタディツアーもすでに実施しています。海外体験を踏まえて、進学先を海外大学にと考える生徒も出るでしょう。

編集部 海外大学への進学者は、すでに出ているのでしょうか。

加藤 本校は以前から、英語だけでなく華語(中国語)にも取り組んでいて、台湾の大学への進学者が、この3年で50名を超えました。意外に感じるかもしれませんが、台湾の大学には英語の講義もあり、欧米からの留学生も少なくありません。

編集部 台湾は、留学先では比較的low価格ですね。

加藤 そうですね。今後は欧米への留学生も増えていくでしょう。

編集部 「ICT・プログラミング教育」はいかがですか。

加藤 中学校開校にあたって新校舎を建設していて、一般教室のほか、パソコンルームも設置予定です。情報技術の基礎から学びますが、この教室だけでなく、全館Wi-Fi完備ですから、日常の授業でもタブレットを活用します。また、プログラミングを学んで、自己表現や問題解決につなげます。

編集部 プレゼンテーションなども行っていくのですか。

加藤 はい。新校舎にはアクティブラーニングルームも設置しますから、探究活動に、また、様々な成果発表として、プレゼンテーションなども活発に行っていきます。年間で複数回のグループ発表があります。

編集部 学外のコンクールなどにも参加するのでしょうか。

加藤 もちろんです。プログラミングのコンテストや情報の検定などだけでなく、数学オリンピックや群馬イノベーションアワードなど、生徒たちが挑戦できる様々なイベントが増えていきますから、積極的に応募したくなるように力をつけていきます。

編集部 「理科教育」についてはいかがでしょう

か。

加藤 本校は東京農業大学の併設校ですから、中高大の連携を深化させていきます。植物マップの作製、味噌づくり、きのこの栽培などを通して自然現象の観察・考察力を養い、実験実習を中心とした、予想→結果→考察のサイクルの確立で論理的に考える姿勢や実証精神を養います。



【写真:中学校の新校舎】

編集部 大学と距離があると、連携もなかなか大変ではないでしょうか。

加藤 大学の先生もよく来てくれますが、ミーティングアプリの活用で、お互いに出かけなくてもできることは多いです。場所的な不利はありませんね。この点はコロナ禍で学んだことです。

編集部 大学との連携が深まると、進学先として東京農業大学を考える生徒も出てきますね。

加藤 東京農大も含め、多様な選択肢の中で、大学を考えてほしいと思っています。

編集部 中高一貫生の進路先ではどのような目標をお持ちですか。

加藤 目標は国立難関10大学、国公立医学部医学科、私大なら早慶など最難関私大への進学です。今年の高卒生も東大、北海道大、東北大や筑波大などに、現役で合格しています。6年間一貫のカリキュラムなら、さらに合格者は増えるでしょう。国内だけでなく、先ほどのお話のように、海外の大学も目標で、生徒が希望する進路に対応していきます。

編集部 かなり高い学力を育成するわけですね。カリキュラムなどをご紹介ください。

加藤 週6日制で月曜から金曜が6時間、土曜日が4時間です。主要教科は学習指導要領の配当時

間数よりも授業時間を増やします。中3で高校の内容に入りますが、毎回の授業のスピードが速いわけではなく、好奇心を刺激する授業内容で、じっくり進めていきます。

編集部 中3で高校の内容に入るのなら、高校では高校入学生とは同じクラスにならないわけですね。

加藤 はい。高校では中高一貫コースを新設します。高校では現在、グローバル、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの各コースがありますが、こうしたコースとは別カリキュラムになります。

編集部 高校のⅢコースはクラブ選抜のコースで、ラグビー、硬式野球、陸上などや、スポーツだけでなく吹奏楽でも全国大会で大きな実績をあげています。例えば中学生が高校に内部進学する際、希望すればそちらのコースに進学できるのでしょうか。

加藤 いいえ、それは考えていません。中高一貫の生徒はあくまでも中高一貫のコースで学んでいきます。

編集部 6年間一貫のカリキュラムは崩さないわけですね。学力伸長のチェックはいかがですか。

加藤 1年間は3学期制で、1、2学期は中間テスト、期末テスト、3学期は学年末テストを行います。学内だけでなく外部模試での学習状況の定点チェックも行います。中1、中2は4、8、2月のそれぞれ年3回。中3はさらに11月も加えた4回を予定しています。

編集部 こうしたテストで、学習状況の課題点が見つかった場合の対応はいかがでしょう。

加藤 部活動は月曜から金曜のうちから週2~3日、土日はどちらか1日に限るようにします。部活動のない日がフォローアップの日になります。

長期休暇中の講座や補講も行います。

編集部 中学生の部活動はどのような予定ですか。
加藤 初年度は各部活動に生徒が分散すると、運動系はまとまった活動は難しくなりますから、バレーボールなど、いくつか限定することになるでしょう。文化系はあまりそのような心配はありませんから、理科部や競技カルタ部など15くらいの部、同好会ができそうです。

編集部 入試の予定をお願いします。

加藤 12月11日と来年2月12日に国算の2科目型、1月15日に適性検査型を予定しています。各科目とも小学校の学習内容がしっかり身に付いているかを見ていきます。特に算数は算数検定6級の特有問題のレベルの出題も予定しています。

編集部 3月にプレテストを行ったそうですね。どのくらいの受験生が集まったのでしょうか。

加藤 292名のお子さんが受験してくれました。高崎市内だけでなく、渋川市や富岡市などからの受験生もいました。

編集部 高い注目度ですね。渋川市や富岡市というと、高崎駅からはバスですね。

加藤 登下校時は頻りに路線バスが走っていますから、便利だと思います。

編集部 最後に、受験生・保護者の皆さんにメッセージをお願いします。

加藤 好奇心旺盛な子どもたちに入学してほしいですね。6年間で体験的な学習を中心に、いろいろな刺激を用意しています。こうした刺激に対して、正面から自発的に取り組む姿勢を育てていきます。「学ぶ」とは、本来は楽しいことです。6年間の日々の取り組みの中で、自分の進路を切り拓いてほしいと思います。

編集部 ありがとうございます。

東京農業大学第二高等学校中等部(認可申請中)

交通アクセス：高崎駅西口から上信バス「農大二高経由鶴辺団地行き」、群馬バス「南陽台行き」、市内循環バスぐるりん「観音山線」、各「農大二高」下車、所要約15分

オープンスクール：7/30(土)、7/31(日)、各9時30分～14時～ 両日午前・午後とも同内容

プレテスト：8/18(木) 入試説明会：9/17(土)・10/15(土)いずれもホームページで予約

※説明会等は予定が変更になることがあります。ホームページでご確認ください。